

令和6年度 第2回（第19回） 鎌倉市市民活動推進委員会 議事録概要版

- 日時 令和6年（2024年）8月29日（木） 18:00～20:00
- 場所 鎌倉市役所本庁舎 全員協議会室
- 出席委員 中島委員長、土屋副委員長、東樹委員、曾根委員、中井委員、水澤委員、山口委員、加茂委員（以上委員8名出席）
- 事務局 市民防災部：瀧澤次長、下田係長、本多、奈木
- 傍聴者 なし

【議題】

1 指針の更新（行政計画への格上げ）に関する 進捗共有

事務局から、指針の更新（行政計画への格上げ）に関する過去の議論内容、今後の進め方について説明。

✚ パブリックコメントの具体的な実施時期は

- ↳（事務局）計画の策定は令和8年度4月を目指しているが、このタイミングの策定がマストではない。今後の作業進捗によってパブリックコメントの実施時期を検討しており、2月頃に開催予定の第4回委員会で案を再度お諮りしてから、進めていきたいと考えている。

✚ 上位計画である総合計画の中に市民活動についてどう盛り込まれていくのか。市民活動の計画策定スケジュールと総合計画の策定スケジュールは合致できるのか。

- ↳（事務局）次期総合計画は、市民自治等を重視する内容となる予定であると確認している。上位計画の担当課である企画課からは、次期総合計画を策定してから、市民活動の推進計画を策定してほしいと言われているので引き続き連携をとって進めていく。

【議題】

2 委託ガイドライン代替策（市民活動団体への委託推進策）の 進捗共有

代替案としての「委託推進策」の目的、具体案について説明。

✚ 事務局で検討している団体リストには、団体の活動歴、年数、規模がわかるような、団体を紹介できるような手法があるとなお良いのではないかな。

✚ プレゼンなど団体の生の声が聴けるプロセスがあると良い。

✚ 委託元である市の事業としては、新規事業と継続事業とがある。新規の場合は、委託先候補となる団体の実績や能力を知りたいため、リスト化が大事。一方、継続事業については、現在の委託先と比較して団体に委託先を変更したほうがメリットがあるということを示す必要がある。団体の認証制度や差別化を図る手法についての議論が以前あった。

✚ 団体を育成する仕組みが必要であり、それは市民活動センターが担うべきである。全体のスキームづくりが必要では。

- ↳（事務局）以前、法務専門監に「登録団体の認証・差別化は適切ではない」と確認しており、あくまでも企業と NPO 団体が同じ立ち位置にいる、ということを周知したいと考えている。今回のリストに即効性があるとは想定していないので、スキームづくりは継続

して検討していく必要がある。NPO センターからも、リストへの登録を希望する団体は少数ではないかと聞いており、登録を促すための啓発が大事だと考えている。

✚ 神奈川県の入札リストに登録されていないと委託が出来ないのか。

- └ (事務局) 委託契約については、原則、県の「かながわ電子入札共同システム」に登録している事業者が発注することになっている。(参考：小規模修繕契約については市独自の名簿に登録することで、発注時の選考対象となる。なお、委託と修繕は別の手続きであるため、かながわ電子入札共同システムに掲載されている必要はない。)

✚ 団体を育てていくという長いスパンでの話であるなら、専属の課が必要。行政が団体とやり取りする際に書類作成など団体の支援等をして、制度を作っただけで終わらないように具体的な仕組みを検討する必要がある。

- └ (事務局) 協働と委託は全く別物であるということを団体に理解してもらう必要がある。相手方と密にコミュニケーションを取りながら進める協働と、市が本来行う業務を団体が担う「委託」とは質が異なる。委託の場合には公平性・公正性の観点から、協定による両者の合意ではなく、入札や見積合わせなどの厳格な手続きのもと行われなければならない。

✚ この仕組みを取り入れることで、人手不足を解消し新しい団体が育っていく土壌を作れると良い。

✚ 委託も協働の一部として見直すことが出来るか。例えば横浜市の委託型協働契約など。

【報告】

1 令和6年度つながる鎌倉エール事業進捗報告（3コース）

スタートアップコースと地域活性化コースの提案事業概要・審査結果及び協働コースの進捗状況について共有。

✚ 審査の基準を明確化する必要があると感じた。

✚ 市内のエール事業の趣旨に合致した事業を展開している団体に認知されるような周知の方法が必要ではないか。また、エール事業は単なる補助金交付の制度でなく、課題解決や地域のつながりをつくる取組に対する補助金であることの趣旨を明確に伝える工夫も必要。

✚ プレゼンに進む前の書類選考など事前のスクリーニングが必要ではないか。特に地域活性化コース・協働コースについては、審査のポイントも大事だが、市民として納得感があるかどうかも重要。

✚ 他の自治体によっては、一次審査・二次審査・書類審査などを実施しているところもある。他市の事例を参考に鎌倉らしいやり方を模索していくのが望ましい。

以上